

いなむら市長の「い~なこの街 尼崎」 8月

テーマ：ゲスト貴布禰神社宮司 江田政亮氏と尼崎のいいところ探し

市長

今回は前回に引き続き江田宮司をお迎えして、また尼崎の魅力を皆さんにもお伝えしていきたいと思うんですけども、引き続き宜しくお願いします。

前回はこのFMあまがさきで放送されてます、8時だよ！神さま・仏さまの番組のお話ですとか、だんじりのお祭りのことなんかうかがいました。今日は尼崎のもっといろんな魅力の話をしたいと思うんですけども、江田宮司は、南部再生っていうミニコミ誌で連載というかコラムを書いてはりますよね。

江田

そうですね、ぶらり街歩きですかね。神主のぶらり街歩き書かせていただいていますね。

市長

いろんなところ行ってはりますよね。ぶらりと。

江田

そうなんです。最初は自分でほんとにぶらりしてたんですけど、最近テーマ与えられてぶらり行かないとあかんようになったんですけどね。

市長

ぶらりなふりしてちゃんと目的を持って。

江田

最新号はイスラム教の宗教施設、尼崎じゃないんですけどねこれは。隣の大阪の西淀川区なんですけど、行かされたり、最近行ってると言うか行かされてる。

市長

そうなんですか、宗教つながりで。

江田

そうなんです。

市長

とうとうイスラムまで。

江田

そうなんです。礼拝もできましたんで、ええのかな思いながら。

市長

え～それはすごいですね。

江田

でもまあもともとやり始めたのがやっぱり私が普段体のためを思って歩いていると、その話を南部再生を編集している若狭君っていう人に話をしたら、視点が独特らしいんですね。尼で育てて神主してる人の視点らしくて。その視点でものを書いてくれって言われたのが最初なんですよ。

市長

なるほどなるほど。確かにね、尼崎もおもしろいところいっぱいありますけれども、人によって見る目線がね。

江田

まったく違うんです。例えば私、空き地が気になったりとかね。ここに次何できんねやろ、そのとき神さんごとやりはるのかなあとかね。そういう興味があったりとか。

市長

なるほどなるほど。神主目線で何か気になったこととかあるんですか？

江田

こないだもこれ書いてましたけども、例えばのぼりでね、秋祭りって結構尼崎の市内ののぼりができるんですね。夏もそうなんかな。そののぼりっていうのは、普段見るのぼりは不動産屋さんが出してるのぼりとかね、ああいうものが多くて、どっちかっていうと目障りだなあとか気になるなあっていうことが多いんです。私にとってはね。でもそれが祭りののぼりになるともうすぐ祭りなんだなあっていうふうに気分を高揚させるなあっていう。これは多分地元の人と同じ気持ちを持ってはるかなあっていうことを書いたりとか。

市長

確かにね。そういう目線もありますね。

江田

あとまあ東難波町には、いろんな宗教が集まってる通りがあるとかね。そういうのも多分皆さん気づかれない。普段から見慣れた風景で気づかれないと思うんですけども、僕にはすごく不思議で。それを書かせていただいたりとか。

市長

そうですね。私も東難波のふれあい祭りにお邪魔したことあるんですけども、会場が神社と教会とお寺ですね。

江田

ああ～そうなんですか。そうですね。あそこ本当に密接にありますもんね。

市長

これがまた面白いですよね。でもね参加してる人は誰もあんまり気にしてないと思うんです。

江田

本当に町の風景なんですよ。そういう意味でも先週言いましたけど、尼崎の人の懐の深さっていうか。

市長

そうですね。もうすでに融合してる感じがありますもんね。本当にそう思います。

江田

そのへんがすごく、ぶらりやあっておもしろいところかなあというところですね。

市長

私もまた今度はじゃあぶらり貴布禰神社のまわりももっと歩いてみたいと。

江田

そうですね、ぶらり市役所いうのも行かせていただいてもいいですか。

市長

ほんとです、ほんとです。ぶらりし合うということで、やりたいと思いますのでお願いします。そう言えば貴布禰神社と言いますと、先週ちょっとお話もうかがったんですけども、寄席をされてるんですってね。

江田

そうなんです、貴布禰寄席という寄席ですね。

市長

これなんかきっかけがあったんですか？

江田

もともと出屋敷の町で、本当の町の人たちが出屋敷寄席っていうのをやってはったんです。本当に町の会館で、多く入っても50・60人くらいの会館でやってはったんですね。それを時々特別例会で、貴布禰神社でやらしてもらえないかっていう相談を私の父親が受けまして、出屋敷寄席特別例会っていうのが始まりできっかけなんです。10回目の記念として貴布禰寄席に変わって、いまだにですから、もう50回近いんですかね。

市長

え～すごいですね。

江田

年に今は3回、以前は2回だったんですけども、5月と10月と、これは夜席ですね、3月には昼席ということで、やらせていただきまして。

市長

そうなんですか。子どもも行ってもいいんですか？

江田

大丈夫です。それこそ、市役所のある方のお世話ですね、赤ちゃんとか子どもさんとか連れてもし途中でぐずったら、預けれるような場所もね、作っていただいて。手作りの寄席、繁盛亭というのはご商売なんですけど、手作りでみなさんボランティアでお手伝いいただいて、落語家は本職の方に来ていただいていますので。

市長

いいですよ。尼崎は、桂米朝一門がすごく活動してくださって拠点にしてくださってますので。

江田

市長ご存知かどうか、市民多いんですよ。尼崎市民の落語家さんて結構多くて、今度尼崎市民特集やるかっていう話があるくらいに。

市長

いいですね、いいですね。ちょっと尼崎のネタも。

江田

そのときは市長も一席やっていただこうか。

市長

えー！一席ですか。前座でも無理かなやっぱり。

実はですね、私娘がいるんですけども、娘が保育所のあるときに、今もう小学校上がったんですけどね、結構今落語絵本が流行ってるんですよ。まんじゅうこわいとか、じゅげむとかね。で、娘がそういう絵本借りてきて、やっぱりリズムがいい、昔の日本の言葉ってなんかスッと入ってくるんでしょうね。自分で音読するのハマってしまってすっかり覚えてね、絵本返してもずーっと空で言うんですよ。

江田

えーすごいですね。

市長

それもね、地獄のそうべえっていうこれもまた超大作のじごくばっけえもうじゃのたわむれっていうすごい超大作の落語が元になってるんですけど、そんなん保育所の子みんな気に入って発表会のテーマにしたくらいなんですけどね。

江田

えっ、すごいなあ、それすごいですね。

市長

私も例えばまんじゅうこわいとか、ほんまの落語ちょっと見せてみようと思って見始めたら親子でハマってしまって、やっぱり落語おもしろいなあっていうんでね。それで落語入っていったら実は我が尼崎市には落語の文化がこんなに身近にあって、なんとまあ恵まれたことかと思ひましてですね。

江田

是非 10 月にまたありますのでお越しください。やっぱり落語を楽しもうと思うとね、時代背景とか世の中の考え方とかそういうこともある程度知識ないと難しいんですよ。だからそれを子どもさんが楽しまれてるっていうのはすごいですよね。

市長

そうなんです。そっからまたね、興味がどんどん「これって何？これどういうこと？」って言ってね、自然と別に勉強してるというんでなくて自分の好奇心を満たしてるというんな歴史とかね、文化にまた触れるみたいですごいもんやなあって思うんです。

江田

是非お越しください、楽しんでいただけたら嬉しいです。

市長

本当です。実は尼崎市も先日薪能をやったんですけども、これ前回の放送でも少しお話しました海で物を運び、川で物を運び、この大物の浦ですね、尼崎市はそういう港があったわけですけども、そこで船弁慶っていう尼崎のその大物の浦ゆかりの落語があるっていうのを知って、そしたらそれはその船弁慶っていう能の演目をパロディにした落語なんです。

江田

まさにそしたらその通りのものなんです。

市長

そしたらまた、うちは当然その大物の浦船弁慶ゆかりの薪能をやっぴりちゃんとやってるっていうこ

とで、こんなんできすぎちゃうの?! っていう。でもね、こういうことを残念ながらまだご存じない市民の方が多いなあと感じてまして。せっかく尼崎のこんな素晴らしい強みをもっともっと発信していきたいなあと考えてるんですけど。江田さんこそご自身も高座にあらわれてするんですか？

江田

いやいや。そんなことはないです。

市長

だってこんなにしゃべんのおもしろくて上手やねんから、やっってはるんちゃうんですか？

江田

しゃべり方の勉強はさしてもらってますけど、それ以上は。

市長

間とか、グッと引き付ける、すごいですよね。

江田

そのへんはだんだん評価をいただくようになってきて、この間、落語家さんにほめてもらって嬉しかったですねえ。なんで嬉しいかわかりませんがね。神主が落語家にほめてもらって喜んでる時点でおかしいですけど。

市長

それもまた聞きにいききたいなあと考えてます。

江田

是非宜しくお願ひしたいと思います。

市長

尼崎市はダウンタウンの出身地だということでイメージ持ってらっしゃる方も多いと思うんですけど、お笑いが身近にある街なんですけども、このたび尼崎新人お笑い大賞、今年度から新しくなんと落語部門ができるんです。私もとっても楽しみで、というのも新人大賞ってこれまで制限時間が短くて、落語をやるには短かったらしいんですけども、やっぱり尼崎で落語がないっていうのはこれはあかんやろうということで、この落語部門の予選が9月15日と16日、午後2時から出屋敷駅の尼トラ横丁内の特設会場で予定してるんですけども、貴布禰寄席のお膝元でございますので。

江田

そうですね。出屋敷寄席・貴布禰寄席に足運んでる方がたくさん行っていただけたらなあと考えてます。

市長

実は江田宮司に審査員をお願いをしております。

江田

なんかそういう話があって、何を審査したらいいんかわからんぐらい。

市長

いやいや、目が厳しそうやけどなんかやっぱりこの尼崎ならではの独特の目線で審査をお願いできればなあと思っております。

江田

一生懸命頑張りたいと思ってます。

市長

これは本選が9月の30日、これは総合文化センターで行うんですけども、優秀者には市長賞をお渡しする予定で、初めての落語部門ということですので、たくさんのご応募・ご参加を楽しみにしております。

江田

これは市長も本選はそしたら・・・

市長

いやあ行きたいなあと思ってるんです。

江田

なんとかスケジュール調整していただいて。

市長

にわかですけど落語ファンとしても。

江田

いえいえにわかじゃないです、親子で審査してもらって。

市長

子どもの方が厳しいかもわかりませんね。

江田

今のお兄ちゃんあかんとか言うて。

市長

あるかもしれませんが、できればそういう幅広い人たちに楽しめる落語を期待したいなあと思います。

江田

そうですね。

市長

尼崎、やっぱり笑う人は長生きするって言いますけども、いろんなパワーの源といいますか、笑いのある街は元気な街言いますから。

江田

人付き合いもしやすくなりますよね、笑えることでね。

市長

これがね円滑油というか、本当にそう思いますのでこれからも笑いがいっぱい笑顔がいっぱいのまちづくりをやっていきたいと思います。江田さんこれからもいろいろとご協力お願いいたします。

江田

はい、笑顔で頑張りますので。

市長

お互いに頑張りましょう。

江田

はい、ありがとうございます。

市長

本当に2回にわたってお忙しい中ありがとうございました。